

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第807号 平成26年9月20日

オウンゴール（1）

「オウンゴール」というのは、サッカー等の競技において、自分のプレーで誤って失点してしまう事で、以前は「自殺点」といわれていました。

今回の表題は「オウンゴール」ですが、別にサッカーの話をしよつというのではありません。今回は、今各界から厳しい批判を浴びている朝日新聞の誤報問題について考えてみたいと思っています。

朝日新聞の誤報問題を「オウンゴール」と表現するのは、特ダネとして打ったボールの処理を誤り、結果、特ダネがまさに「自殺点」となつてしまつていると思えるからです。

現在、朝日新聞が批判を浴びている問題は

- ・吉田証言を基にした一連の従軍慰安婦報道
- ・福島第一原子力発電所事故に関する聴取結果書（吉田調書）のスクープ記事
- ・朝日の従軍慰安婦報道の検証結果に対し厳しく評価している池上彰氏のコラム「池上彰の新聞ななめ読み」の新聞掲載を拒否した事

という3点です。

朝日新聞は、9月11日、木村社長自ら会見し、誤報を認め、謝罪していますが、一向に朝日新聞に対する批判は止みそうにありません。その理由は、木村社長の謝罪に対しても、外堀が埋められ、追い詰められた結果に過ぎず、何処までが真意か分からないと感じている人が少なくないからではないかと思っています。

私は、長年にわたつて朝日新聞を購読して来ましたが、朝日新聞の一連の対応には非常に残念であり、厳しく評価せざるを得ないと考えています。

朝日新聞は、1982年（昭和57年）に、「済州島で200人の朝鮮人女性を慰安婦にするため強制連行した」とする吉田清治氏の証言を報道し、その後も数次にわたり吉田証言をベースに、従軍慰安婦報道を繰り広げて来ました。

これまでの、朝日新聞の報道に対しては、慰安婦と挺身隊との混同が見られる事や、済州島での裏付け取材も行われていない等、記事の信憑性に問題があると批判されて来ました。特に、1992年（平成4年）には、産経新聞が吉田証言に問題があると報道していますので、検証する気になれば、22年前には出来たはずでつ。

今回朝日新聞は、これまで報道の根拠として来た吉田証言なるものがでつち上げであつた事を認め、関連記事を取り消すとしまつたが、実に20年以上にわたつて

誤報が垂れ流された事によって、我が国が「性奴隷国家」とまで揶揄されるに至っている今日の事態を、朝日新聞は一体どう考えているのでしょうか。

慰安婦の存在を否定する人はいないと思います。また、慰安婦になった女性が、好き好んでそのような状況に身を置いたとも考えられません。その意味で、何らかの強制性が働いた事は容易に想像出来ます。

今回の朝日新聞の誤報問題によって、慰安婦問題そのものが軽視されるような事があるわけではありませんが、朝日新聞の誤報が偏狭なナショナリズムに火を点け、冷静な議論をし難くしているというのは、大きな問題だと思います。

(塾頭：吉田 洋一)